

今度は私が助けたい —組織の中で働く人のために—

吉田 明浩さん

会社名：某地方銀行 役 職：支店長

資 格：産業カウンセラー、国家資格キャリアコンサルタント、MBA(経営管理修士)、心理相談員、両立支援コーディネーター、事業場内メンタルヘルス推進担当者



【受講のきっかけ】

振り返ればもう9年程前になるでしょうか、営業店の支店長として歩き始めたばかりの私は、仕事の上で大きな挫折を経験しました。それまでの私は、順風満帆とまではいかなくても、それなりに順調なサラリーマン生活を送っていたのですが、そんな中で私の身に突然起きたことへのショックはとて大きく、私は初めて自分の将来を悲観しました。組織の中での孤立感を感じるとともに、「なぜ自分なんだ」と運命を嘆いたり、「こんなことではダメだ。もっとちゃんとしなければ」と焦ったりと、ぐちゃぐちゃな感情が渦巻く中で私は何一つ前向きになれずにいました。

そんな時、かつて同じ営業店で、課長と課長代理という直属の関係にあった元上司（その時はすでに関連会社に転籍されていましたが）の方が、私のことを聞きつけて、幾度となく私を訪ねてくれました。元上司は私を元気づけようとする言葉をかけるわけでもなく、その出来事に触れるのでもなく、訪ねてくれるたびに私の話をただじっと聴いていてくれました。元上司とのこうしたかかわりが数か月続いた頃、ふと顔を上げると私は暗く長いトンネルからいつの間にか抜け出すことができていました。

この経験は、その後の私の生き方を変えるに十分なものでした。元上司とのかかわりを通して私が学んだことの一つが「聴く力」の素晴らしさです。これ以後、私は、もし予期せぬ出来事で組織の中でつらい思いをしたり、自分らしさを失って悩んだりしている人がいれば、自分がしてもらったように、その人の力になりたいと思うようになりました。このようなことがきっかけとなり、

私は以前から興味を抱いていた産業カウンセラー養成講座を受講することになったのです。

【資格取得後の活動状況】

現在も相変わらず営業現場の第一線にいます。直接に人事相談やカウンセリングなどの仕事に就いているわけではありませんが、養成講座で学んだことを実践する場は、人事部による定期的な面接やカウンセリングルームといった正規の場所でなくとも自分の身近なところに幾らでもあり、そこで働く人々の心身の健康なくして組織の成長はない、ということに気づきました。この気づきは、養成講座での学び無くしては得られなかったことだと思います。

また、管理職の仕事というものは、部下から仕事の相談を受け、それに明確な解決策や方向性を示すことが大きな役割ですが、養成講座で学んで資格を取得した後は、単に解決策を示すだけの上司と部下の関係ではなく、

「この人は今、心身ともに健康だろうか。悩みを抱えて人知れずモチベーションを落としてはいないだろうか。私とこの人との間にラポールはできているだろうか」などと以前よりはるかに深く考えるようになりました。管理職としてのスキルが向上しただけでなく、人間としての幅が大きく広がったようにも感じています。

「資格取得はゴールではなくスタートである」とよく言われます。今の私には、カウンセリングや心理学の理論を専門的に深く学ぶ時間がなく残念ですが、少しずつ学びながら絶えず実践し、自分らしく、組織の中で働く人々のために寄り添えるような活動をしていきたいと考えています。